



若年者の非オピオイド薬物使用における認知行動療法は、他の治療と同等か劣っている



CBTは、外来治療への使用では他の治療法よりも、青少年の非オピオイド薬物使用を減少させない。

このレビューのねらいは何か？

このキャンベル系統的レビューでは、13-21歳の若者の薬物使用（大麻、アンフェタミン、エクスタシー、コカインなど）を減らすための、外来治療における認知行動療法（CBT）の効果を検討している。このレビューでは、無作為化実験法を用いた、7つの研究結果をまとめている。

若者の薬物使用を減少させるために、外来治療においては、認知行動療法(CBT)は他の介入法と比較して、同等もしくは悪化する。

このレビュー研究はどのようなものか？

大麻、アンフェタミン、エクスタシー、コカインなどの非オピオイド薬物の若者による使用は世界的に深刻な問題である。認知行動療法（CBT）は、若者の薬物乱用治療として広く使用されている。CBTは、ストレス対処や問題解決の能力向上させることや、薬物使用の機会に抵抗する自信を促進することにより、青少年の薬物利用を減少させることを目的としている。

このレビューでは、外来治療の際に青少年に行われる他の治療と比較して、CBTが13-21歳の非オピオイド薬物使用をより減少させるかどうかを考察している。

どのような研究が含まれているのか？

このレビューに含まれる研究は、CBTと—ほとんどがセラピーに基づく—その他の幅広い治療法とで、若者の自制や薬物利用、その他の結果への効果を比較したものである。CBT介入は、外来時にクライエント1名もしくは集団で、専門家によってなされたものが含まれている。それらには動機づけ面接のような追加的な要素を含んでいるかもしれないが、CBTが主要な介入となっている。

17本の論文で報告された7つの優れた研究が本報告では含まれている。7つ全ての研究で無作為抽出法が使用されており、そのうち6つの研究はアメリカ合衆国、1つの研究はオランダで行われている。また全体で953名が研究に参加している。



このレビューはどのようにして更新されるのか？

本レビューでは、2012年9月までの研究を調査している。また本キャンベル系統的レビューは2015年1月2日に公表されている。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。われわれは、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスの質を要約し、評価している。われわれの目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Bianca Albers (Centre for Evidence and Implementation, Save the Children Australia)により、Campbell Systematic Review 2015:3 'Cognitive-Behavioural Therapies for Young People in Outpatient Treatment for Non-Opioid Drug Use: A Systematic Review' by Trine Filges, Anne-Sofie Due Knudsen, Majken Mosegaard Svendsen, Krystyna Kowalski, Lars Benjaminsen, Anne-Marie Klint Jørgensen (10.4073/csr.2015.3)に基づき、執筆されたものである。Anne Mellbye (R-BUP)より要約の策定がなされ、Howard Whiteが編集が行い、Tanya Kristiansen (共にCampbell Collaboration)により製作された。

CBTは、13-21歳の青少年での非オピオイド薬物の使用を減少させるための外来治療において、他の治療法よりも効果的か否か？

非オピオイド薬物を一切絶つことや使用を減らすことにおいて、外来の薬物乱用治療を受けている青少年に対しては、CBTは他の治療法よりも優れているわけではない。総合的な結果として、たとえCBTが追加処置として動機付け面接を併用しても、しなくても同様だった。またCTBが、若者の社会的機能や学校での問題、犯罪活動、治療持続などの他の結果に与える良い効果も見られなかった。

このレビューの知見の意味するものは何か？

CBTは、外来治療の際に用いる際には、他の治療法と比較して、青少年の非オピオイド薬物使用を減少させるには良いわけではない。

このレビューは、少数の研究だけに基いており、またそのうちいくつかの研究は方法論に脆弱性と欠陥がある。厳格な研究計画に基づき、世界的なCBTの根拠を加える可能性のある、CBT介入の追加試験のために資金が必要でしょう。今回扱われているCBT研究の大半はアメリカ合衆国で実施されたものだ。したがってこのレビューの知見は、他の社会的、文化的状況では適応範囲は限られている。CBT介入についての将来の試みとして、より多くの国において実施されるべきであろう。